

浮世絵と ジャポニスム

2019.6.13(木)

14:55~16:25 ※開場14:15

東京女子大学講堂 (東京都杉並区善福寺 2-6-1)

【アクセス】 JR西荻窪駅または吉祥寺駅より関東バスで「東京女子大前」下車

【案内】 東京女子大学比較文化研究所

◎03-5382-6506(行事案内テープ) ◎<http://lab.twcu.ac.jp/icsc/home.html>

申込不要・聴講無料・定員500名

 東京女子大学比較文化研究所

公開講演会

講師

— 藤澤紫

ふじ さわ むらさき

國學院大學教授



浮世絵と ジャポニスム

講演梗概

19世紀後半に西欧芸術におこった日本の影響現象を、一般にジャポニスム(japonisme)と称するが、とりわけ芸術面で強い影響を与えたのは、漆器、陶磁器、染織などの工芸品や絵画であった。中でも色彩豊かでユニークな構図が目を引く浮世絵版画や、『北斎漫画』に代表される版本は評判を呼んだ。これらはもともと点数も多く、瞬く間に趣味人や作家たちに広まり愛好された。私も20年来、断続的に海外諸機関が有する美術品に携わる機会を得てきたが、特に欧米の名だたる美術館や博物館に、優れた浮世絵のコレクションがあること、そして今もなお高い評価を得ていることに驚きや誇りを感じる。中性紙に包まれ1枚1枚丁寧に保存されたそれらは、数百年の時を経てなおも鮮やかである。

国内外で多数の浮世絵展やイベントが開催され、まさに「浮世ブーム」といわれて久しいが、現代の私たちもまた「ジャポニスム」現象の追体験をしているのかもしれない。今回は、浮世絵に見られる西洋文化と海外に与えた影響をそれぞれ考察するとともに、在外コレクションを通じた国際交流のありかたについても触れてみたい。

講師紹介



藤澤 紫

Murasaki FUJISAWA

國學院大學教授

学習院大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得。博士(哲学)。専門は、日本美術史、江戸文化論、比較芸術学。第12回国際浮世絵学会賞(2018年)、第20回内山晋米寿記念浮世絵奨励賞新人賞(2005年)を受賞。

主著:『遊べる浮世絵 くもんの子ども浮世絵コレクション』(共著、青幻舎)、『別冊太陽 鈴木春信 決定版』(監修・執筆、平凡社)、『浮世絵の至宝 ポストン美術館秘蔵 スポルディング・コレクション名作選』(共著、小学館)、『鈴木春信絵本全集』(編著、勉誠出版)ほか。メディア関連:「浮世絵 EDO-LIFE」(NHK BS4K、監修)、「NHKドキュメンタリー 江戸のリアル ウーマン—歌麿が描いた女たちの物語—」(NHK BSプレミアム、美術監修・出演)など。

アクセス

■JR西荻窪駅北口より徒歩12分

■バス利用の場合

- ◎西荻窪駅北口(1番のりば)から吉祥寺駅行「東京女子大前」下車
- ◎吉祥寺駅北口(3番のりば)から西荻窪駅行「東京女子大前」下車
- ◎上石神井駅南口から西荻窪駅行「地蔵坂上」下車徒歩5分

【所在地】〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1

※車でのお来場はご遠慮ください。

